

ヒアリングの主な論点

1. はじめに、これまで地球温暖化対策について、何を実行し、どのような効果を上げてきたのか、また、その成功要因は何かについてご教示下さい。
2. 中長期ロードマップの特に関連の深い部分について、削減目標や導入目標、技術の導入量やそれに向けた対策・施策、対策実施のスケジュール等のうち、対応が難しいと考えられるものについてご教示下さい。また、その理由について具体的にご教示下さい。さらに、どのような課題がクリアされれば、また、どのような支援や方策などがあれば対応が可能となりうるのか、その具体的な内容についてご教示下さい。
3. 中長期ロードマップの特に関連の深い部分について、削減目標や導入目標、技術の導入量やそれに向けた対策・施策、対策実施のスケジュール等のうち、すでに対応を始めている対策、対応が可能であると考えられるものについてご教示下さい。また、削減目標や導入目標、技術の導入量について、どこまでは対応が可能と考えるかについて定量的・具体的に理由とともにご教示下さい。さらに、追加で書き込むべき事項があれば、具体的にご教示下さい。
4. 中長期ロードマップにおける経済分析についての所感、評価できる部分、問題と感ずる部分、さらに検討が必要な事項等について、具体的にご教示下さい。
5. ご自身の分野と他分野との協業により、温室効果ガスの削減が期待できると考えられる業際的な分野があればご教示下さい。
6. 温暖化対策を、新たな成長の柱としていくために必要なことはどのような事だと思いますか。また、対策を進めることによって得られる副次的効果や新産業・雇用創出効果としてはどのような内容が期待できると考えますか。
7. 日本が世界の低炭素社会の構築に貢献するためにはどのような方策があると思われますか。また、そのためにはどのような対策や施策が必要と考えますか。技術移転のメリットとデメリットも含めてご教示下さい。
8. 低炭素社会に向けて社会をよりよくしていく仕組みや企業や地域、個人への後押しとして、以下に掲げる点を中心にどのような対策や施策が必要と考えますか。(2020年、2030年、2050年の各時点における見通しをご教示下さい。)
 - ・ 優良技術の普及拡大とそのための社会システム改革、革新的技術の継続的な研究開発
 - ・ 排出量の見える化の徹底
 - ・ 排出削減に努力する人や企業が報われる仕組みづくり
 - ・ 低炭素社会を実現するハード及びソフトインフラ整備の推進
 - ・ 人材育成・環境教育、環境金融の活性化
9. その他、ロードマップに関連してご意見があればお願いします。

※ なお、これらの基本的な論点に加え、会合ごとに、その回のヒアリング対象分野に特化したヒアリング項目についてとりまとめ、ヒアリング対象者に事前送付することとする。当該ヒアリング項目の作成に当たっては、各委員からの御意見をお聞きしたうえで、小委員長がとりまとめることとする。